



第34号

さらしな

友の会だより



2016・春



諏訪社の脇に建てられた御柱、奉納される祝詞（中村真仁さん撮影）



地元の山から切り出された御柱の赤松。左が若宮区、右が芝原区



里曳きを待つ御柱



建御柱のあとに花笠音頭を奉納する氏子のみなさん

どうしたもんじやるの？

諏訪大社の御柱祭が行われた。数え年7年に1度、申・寅の年に行われる勇壮な祭りだ。下社山出しの木落とし場面では迫力満点のシーンに「どうしてこんな危険なことを」と、冷めた気持ちを持ちながらその圧倒的な祭りのエネルギーに興奮を覚える。一方、県内各地の御柱祭では、実施を住民投票で決めたというニュースがあった。氏子が減り安全に行うことができないのではと危惧したからだそう。結果協力してくれる高校もあり無事に開催することができたという。実施できたからニュースになったが祭りの実施を断念したところもあるだろう。

さて、佐良志奈神社の御柱祭は若宮・芝原の両区から1本ずつ御柱を山出しする。小学生が中心の子供たちが里曳行し、境内に鎮まる諏訪社前に建てる。準備作業は約3カ月、実行委員会を立上げ、寄付を集めて、監督機関から許可を取る。気持ちが落着かず眠れない夜が続く。事故の無いように細心の注意を配り、3月5に山出しを行い、3月25日に里曳き・建御柱と祭りは無事に終了した。次回に向けての反省会では、特に反省する点も無く、天気にも恵まれ無事に終わったことを喜んだ。

子供たちが減少したせいだろうか、自分が御柱祭に慣れてしまったせいだろうか、祭りの興奮が前よりも小さくなった。「参加せざるをえない」そんな冷めた雰囲気を感じたせいだろうか？いや、結局自分自身の問題だ、祭りに対する意欲が沸かない。何よりも祭りの本来のエネルギーがどんどん小さくなっている。次回の御柱祭は子供の減少、松枯れ、技術の継承など諸問題に直面する。佐良志奈神社の御柱祭はどうあるべきか、どうしたら魅力的な祭りになるのか頭を悩ませる。（佐良志奈神社宮司・豊城憲和）

明治天皇御巡幸と冠着山復権運動

冠着山に姨捨山の別名があるのを明治の中ごろになると知らない人が多くなっていました。それをまた世の中に紹介したのが更級村初代村長の塚田雅丈さんです。

彼の活動の大きなきっかけになったのが、明治11年の明治天皇御巡幸。宮中で、日本の歌道の御用掛を担当した加部巖夫と近藤芳樹が随行了したのですが、戸倉駅(宿)に一行が到着し、天皇が休憩された際、加部巖夫は姨捨山といわれる名所を巡見しました。ところが、古歌にある事実とは違うことを目にして、近藤芳樹に「姨捨」というも名所にはあれども、伝えたる古事にも取らぬも足らず：高く聳える冠着山が実の姨捨山である」と伝えました。



このことは直ちに東京日日新聞

随行者、岸田吟香によって全国版にて報道されました。さらに宮内省の明治天皇御巡幸の記録「陸路廻記」に「今の姨捨山は似非法師のつくりごと」と書かれます。この2名と新聞記者岸田吟香によって初期姨捨山所在地復権運動が始まったと言われています。

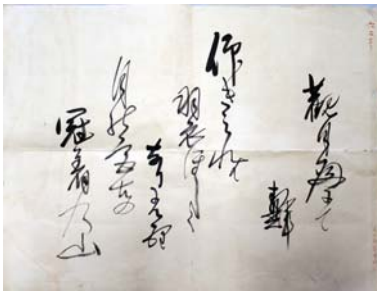
続いて長野県小学校教科書「信濃国地誌略下」に「冠着山ハ一名姨捨ナリ」と記載されました。やがて復権運動は塚田雅丈さんへ引き継がれ、明治26年9月6日「信濃毎日新聞」一面に「姨捨山の所在の誤りを正す」と題して、全面広告を出し復権運動の成果を県下に報告しました。その成果は、明治43年に測図した地図に冠着山(姨捨山)と堂々表示され今日に至っております。

塚田雅丈さんの復権運動に賛同した大物政治家のお宝を紹介いたします。

「慎始敬終」近衛篤磨真書 学習院長 貴族院議長を務めた人です。内閣総理大臣近衛文麿の父に当たります。近衛閣下が塚田雅丈さん宅に訪れた折、県下の有志達が雅丈さんの新座敷に集まり、歌会や政治談義を行います。そのときに閣下が九谷焼の杯で飲みほしたのが上の一品です。

「冠着山短歌集」明治政府の元太政官出仕なる某氏真書 明治18年内閣制度が発足し太政官制度が廃止された後、理由があつて名を語らず。明治天皇御巡幸のとき随行了した6名のどれかでしょう。羽尾に密に訪れ、当時(御巡幸)をしのび自らの身を姨捨山に重ねて作った歌。

仰ぎ見れば羽衣干して形光り月の都の冠着の山 (羽尾四区・大橋静雄)



リレイ エッセー

忙中閑あり

若宮区・高松義子



朝五時の目覚まし時計が鳴る。ああ今朝も元気に起きられたなと、健康に感謝しながら起き上がる。横を見ると、両脇にかわいい孫の寝顔があり、小さな幸せを感じながら一日が始まる。

何とか定年まで勤め上げ、沢山の花束に贈られて退職、家に入ったら何をしようと考えまもなく、息子が可愛い嫁さんを連れて同居、核家族が多い中、今では四世代八人家族、なかなかにぎやかな毎日です。おかげで自分の間家事の定年はなさそうで感謝(?)。

孫は男の子三人(七歳・四歳・二歳)。息子一人の私には、二度目の子育ての気分です。主人と二人定年になったら、年に一度くらいは海外旅行なんて思っていました。しばらくは夢のまた夢のようです。その代わり、今は孫たちのお守りもかねて海・スキー・ショッピングと今しか出来ないことを満喫しています。

こんなわけで、一日がそして一週間があつというまに過ぎて

いく中で、ひとつだけ趣味というには小さいことですが、退職前から仲間に入れていただいて始めた川柳が、今の私には一番の楽しみです。月一回の勉強会ですが辞書を片手に忘れかけていた言葉や字を探し句を作り、仲間から意見を聞いたり、お互いに言いたい事を言い合う、楽しいひと時です。

月に二十からの句作りは結構きついです。なんとか頭を振り絞って楽しんでいきます。不思議なことに、時間が無い時ほど、句が頭に浮かんできます。題材は、今の自分の毎日の生活を句にすれば良いわけで、大家族の私は、題材には恵まれているんじゃないかな。

でもやはり一番多いのは孫の句です。今しか出来ない句を作っています。ここに孫の句を紹介してつたない私の雑記にします。

- ・春だよと小さな靴が走り出す
- ・宝物れんげ畑の首飾り
- ・ランドセルそつと見送る物の影

さらしなの里の情報データベースとしてもご利用ください

「さらしな」を世界に紹介するHP誕生！



- さらしなルネサンスとは
About
- 活動内容
Activities
- なぜブランド地名？
Brand
- さらしなブログ
Blog
- さらしなギャラリー
Gallery
- アクセス
Access

キーワードで探す



美しささらしな

長野県の千曲市を中心とした冠着山のすそ野にひろがるさらしなの里。「月の都・千年文化」再発見の里づくり

お問い合わせ



千曲市観光振興計画でも「さらしなの里」前面に

「さらしなそば」の「さらしな」は、更級地区を含む千曲川の西側地域のかつての呼び名だった「更級郡」から取られたものです。そばのさらしなはなぜ白いか掘り下げた結果、「さらしな」には、日本人の美意識がたっぷりまつていることがわかりました。千曲川の川西地域を中心にもう一度「さらしなの里」とみんなと呼び、地名をもっと文化、教育、経済にも活用しようという地域づくりが始まっています。推進母体のさらしなルネサンスのホームページ（HP）も昨年末できました。さらしなが好きな人たちが情報を発信・共有し、魅力をさらに発展させていくプラットフォームです。

HPの一番の特徴は「さらしなブログ」。さらしなが好きな人たちが記者、特派員になって、さらしなの里のことを紹介する場です。面白かったイベントの報告や、発見・発掘した歴史文化、おいしいもの、感動したことなどを写真と一緒に投稿します。それによって、さらしなの里の活動がさらに

魅力的になることを目指します。今年のNHK大河ドラマ「真田丸」で注目を浴びる、のちの松代藩初代藩主の真田信之が、京都の知人に、「田毎の月」のことを自慢している手紙があることや、さだまさしさんの曲にも「田毎の月」の歌があることも紹介しています。ブログの内容はデータベースにして世界のどこからでもいつでも、検索すれば手軽にさらしなにたどりつけるようにしています。

さらしなルネサンスでは、このHPの存在をどう活用するかについても話し合う集まりを3月12日、さらしなの里展望館で開催しました。さらしなブログへの投稿の仕方を、実際に写真を撮って投稿する実践講座にもなりました。

今年4月からの千曲市の観光振興計画もまとまりました。日本内外から観光客を招くための将来ビジョンを「古より特別の想いを寄せる憧れの地・科野 さらしなの里 千曲」という言葉にまとめられています。「さらしなの里」が前面に出ています。この政策の推進にもHPで協力します。「さらしなの里友の会だより」の過去の全号も読めるよう、HPにリンクを張っています。（芝原区・大谷善邦）

なぜ冠着山の麓に縄文集落ができたのか

おらほの冠着 33



きれいな伏流水と日当たりの良さ

冠着山の急斜面から少し緩やかな傾斜となった場所に、湯沢川と雄沢川により運ばれた土砂が堆積し、扇状地が形成されました。この扇状地は水はけが良く、日当たりが良好で、末端の羽尾・須坂両地区との境界や県道長野上田線の崖上には湧き水（写真）があり、縄文人の好む集落地として選定されました。その代表が円光房という地籍にある円光房遺跡です。

あなたが縄文人だとして、手つかずの自然が残る更級で、どこにでも住んでよいと言われたらどんな場所を選びますか。水に恵まれている日本では、水のすぐ近くに

集落を構えたことでしょうか。しかし、どんな水でもよいわけではありません。小川は表流水であるため、不純物が混ざって濁ったり、細菌を含んだり、また、水量が変化します。もっと恒常的に安全で安定した水がないと定住するには不安が残ります。あまり労せず、その水を確保したいと思うのではないのでしょうか。

縄文遺跡の立地には、ある法則があります。彼らが好んで集落をつくるのは、扇状地の末端、扇端部と呼ばれる場所です。左の図をご覧ください。扇状地の末端、扇端部は湧き水があります。扇状地



が形成される頂点、A扇頂部から地面に浸透した水は、B扇中部では伏流水となつて地下を流れ、再び地表に現れます。この地点がC扇端部。地下に浸透した伏流水は砂礫層の間を通過して浄化され、きれいな水となるのです。これを縄文人が見逃すはずがありません。

扇状地は果樹栽培に適した土地ですが、それは水はけが良いことが挙げられます。家を築くにも、水はけの良い土地は好都合です。さらにもう一つ、日当たりが良好な場所が候補の条件となります。ムラをつくって定住するとなると、岩陰などのねぐらだけの家ではなく、太陽の光は、明るく暖かくなります。太陽の光は、明るく暖かると、健康、生活リズムの管理など生活に必要な大きなエネルギー源になります。

こうした条件の場所を探すと、縄文の集落遺跡が発見できます。円光房遺跡は、こうした場所に立地しています。円光房遺跡がある耕地は、今でも雨が降らなくても土に湿り気があります。これは耕地のすぐ下を流れる伏流水がしみ出しているためと考えられます。
 (さらしなの里歴史資料館学芸員・翠川泰弘)

友の会副会長の 堀内本啓さん逝去

2月24日、さらしなの里友の会副会長の堀内本啓さんが逝去されました。享年93歳。その温かなお人柄で、友の会のさまざまな活動にご尽力くださいました。ご冥福をお祈り申し上げます。



武田清志・新館長が就任



4月から小池前館長の後任として就任しました武田清志です。歴史あるこの縄文の地で、微力ではありますが学習や交流の場として楽しくご利用いただけるよう努めてまいります。今年度から職員が1名減り、館長、翠川泰弘、大谷千尋の3人体制となりますが、一同専心努力してまいります。友の会、地域の皆様のご支援をよろしくお願いたします。

編集後記

佐良志奈神社の御柱祭、豊城さんの率直な報告に感銘を受けました。この祭りに限らず、伝統行事を長く続けることのすばらしさ、大変さ、難しさ…。率先する人たちの一番の仕事は後継者の育成と、というのはビジネスに限られません。

編集・発行

さらしなの里友の会より編集委員会
 (事務局・さらしなの里歴史資料館)
 〒389-10812
 長野県千曲市羽尾247の1
 電話 026(276) 7511
 Fax 026(261) 4161